

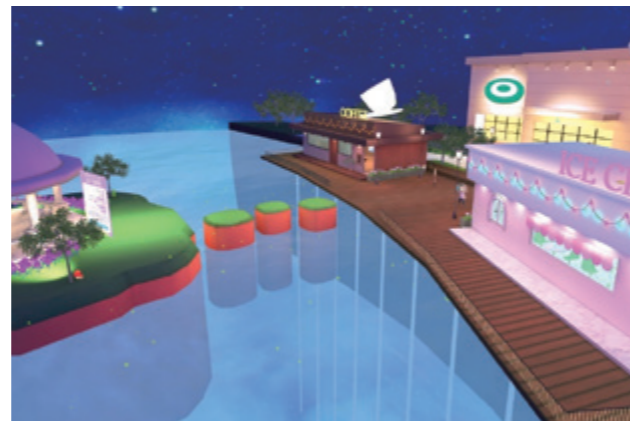
河川環境課が実施した、川の国埼玉を目指した取組



メタバースを活用した取り組み

バーチャルレイクタウン 水辺deベンチャーチャレンジVer.の作成

スマートフォンでも使用可能なメタバース空間Doorに、バーチャルレイクタウン 水辺deベンチャーチャレンジVer.を制作して、水辺deベンチャーチャレンジによって整備された大相模調節池を誰でも簡単にイメージできるようにしました。



ここから入れます▶



川の国埼玉をPRしたイベントの開催

埼玉バーチャル観光大使と連携したイベント

埼玉バーチャル観光大使である春日部つくしさんと連携したイベントを実施。より多くの人に埼玉の河川を知ってもらいました。



春日部つくしについて▶



湖畔サミットの開催

水辺のプロフェッショナルが、越谷レイクタウンに集結。様々な水辺の取組について、紹介しました。



川の国埼玉の魅力発信

埼玉の自然豊かな川、素敵な水辺の魅力に一度触れてみませんか

詳しい情報は
県ホームページへ

川の国埼玉

検索



YouTubeによる魅力発信

人気YouTuberが埼玉の川の魅力を発信



SNSによる魅力発信

川の国埼玉の最新情報は
河川環境課公式SNSをチェック!



X



Facebook



Instagram

埼玉県 県土整備部 河川環境課

2024年〇月発行

【表紙】名栗湖(一級河川有馬川/飯能市)・三波溪谷(一級河川都幾川/ときがわ町)

TEL 048-830-5110 FAX 048-830-4866

E-mail a5110@pref.saitama.lg.jp

「川の国埼玉」も目指して



名栗湖(一級河川有馬川/飯能市)

埼玉の川の再生



三波溪谷(一級河川都幾川/ときがわ町)

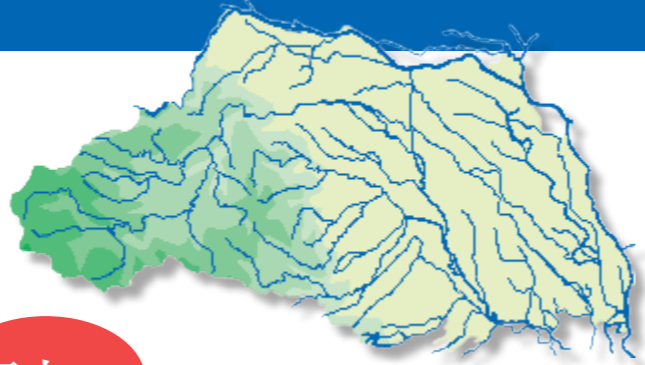


埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

埼玉の川のポテンシャル

全国
第2位

県土に占める河川面積割合
3.9% 河川面積 150km²
山手線の内側の約2.4倍



日本一



川幅(堤防間の距離)

2,537m 荒川(鴻巣市~吉見町間)
東京スカイツリー4つ分の長さ

※平常時



※増水時(2007年9月7日台風9号による出水の様子)



水辺空間とことん活用プロジェクト

平成 25 年度から「河川空間のオープン化」を進める

賑わいスポット
も充実!

- 平成 23 年 4 月の国の規制緩和を活用
- 民間事業者による河川敷地の商業利用が可能

河川敷地の占用は、従来、占用主体が地方公共団体、公益事業者等の公的団体に限られていましたが、河川敷地占用許可に係る規制の緩和により、民間事業者が河川敷地をオープンカフェ、キャンプ場、バーベキュー場などに利用できるようになりました。

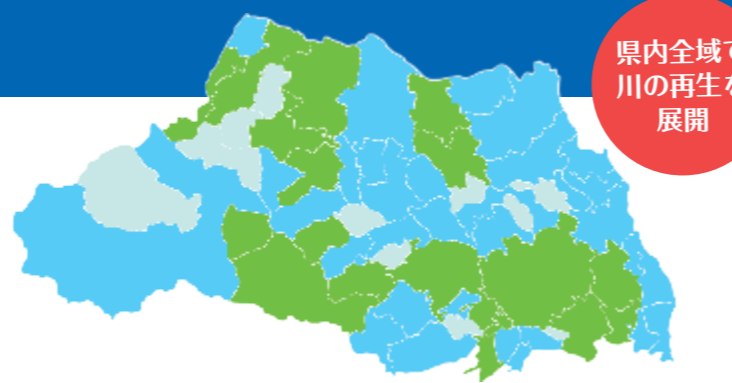
埼玉県では、この制度を活用した「水辺空間とことん活用プロジェクト」を平成 25 年度から進めており、これまで整備した水辺空間に「新たな魅力」と「賑わい」を創出し、地域の活性化を図ることとしています。

区分	占用施設の例	占用料
1 建物の敷地の用に供する土地	飲食店、売店、オープンカフェ等	年額 360円/㎡
2 工作物の敷地の用に供する土地	移動販売車、簡易販売施設(テント、屋台等) 自動販売機、飲食店等に付帯する軽易な設置物(イス、テーブル等) イベント施設、洗い場、便所等	年額 160円/㎡
3 河川敷地を原形のまま占用させる土地	広場、キャンプ場、バーベキュー場及びこれらに附属する駐車場等	年額 1500円/a (15円/㎡)

川の再生の施策展開

県内全域で
川の再生を
展開

- 2008年度~2011年度
 - 水辺再生100プラン
- 2012年度~2015年度
 - 川のまるごと再生プロジェクト
- 2016年度~2020年度
 - 川の国埼玉はつらつプロジェクト
- 2021年度~
 - 水辺deベンチャーチャレンジ
(民間事業者と連携した河川空間の利活用)



●水辺再生100プラン・川のまるごと再生プロジェクト実施市町村
●川の国埼玉はつらつプロジェクト実施市町村

「川の国埼玉」の実現へ

意義

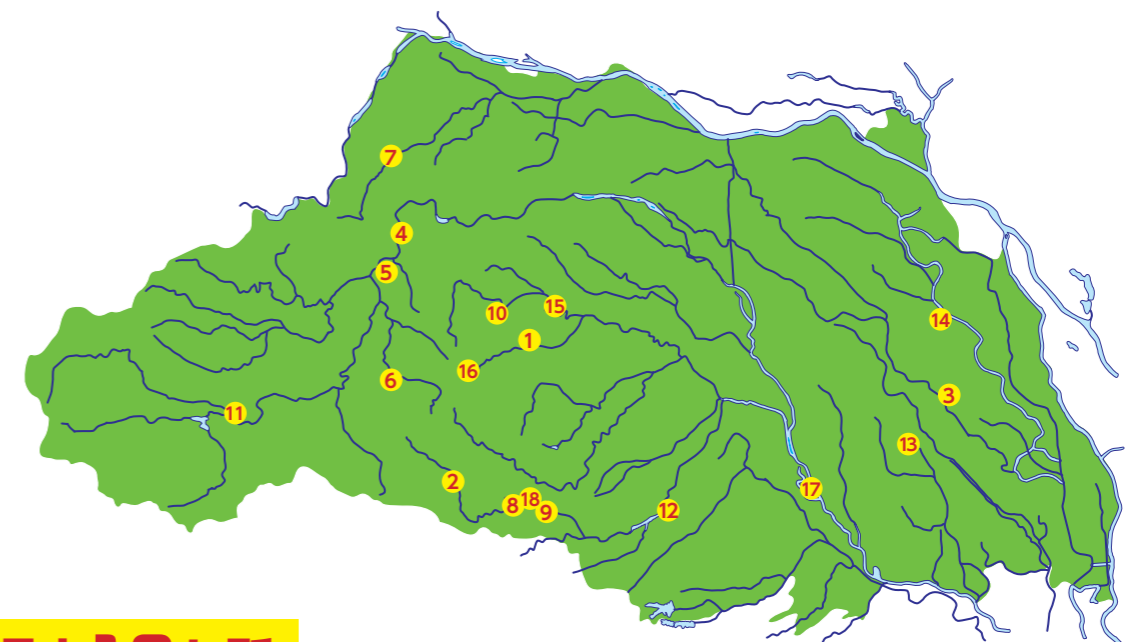
水辺の豊かな環境を再生し
埼玉が持つ高い川のポテンシャルを
県民生活や地域振興に生かす

目標

県民誰もが川に愛着を持ち
ふるさと埼玉を実感できる
「川の国埼玉」を実現する

河川の民間活用 日本一

詳細情報は
県ホームページへ



県内18か所

2024年4月現在

- ① 都幾川/ときがわ町(ときがわ町川の広場)
- ② 入間川/飯能市(名栗弁天河原河川広場)
- ③ 大落古利根川/春日部市(大落古利根川河川広場)
- ④ 荒川/寄居町(かわせみ河原)
- ⑤ 荒川/皆野町(親鼻橋河原河川広場)
- ⑥ 横瀬川/横瀬町(道の駅芦ヶ久保バーベキュー場)
- ⑦ 神流川/神川町(秩父瀨神流パークバーベキュー場)
- ⑧ 入間川/飯能市(リバランタ)
- ⑨ 入間川/飯能市(飯能河原イベント広場)
- ⑩ 都幾川/ときがわ町(ときがわ町グランピングプロジェクト)
- ⑪ 荒川/秩父市(ジオグラビティーパーク)
- ⑫ 入間川/狭山市(入間川河川敷中央公園)
- ⑬ 綾瀬川/さいたま市(大門上池調節池底面広場)
- ⑭ 大落古利根川/杉戸町(大落古利根川河畔)
- ⑮ 槻川/嵐山町(嵐山渓谷バーベキュー場)
- ⑯ 都幾川/ときがわ町(木のむらキャンプ場)
- ⑰ びん沼川/富士見市(びん沼自然公園)
- ⑱ 入間川/飯能市(飯能河原バーベキュー場)

水辺空間とことん活用プロジェクトの取り組み事例

河川敷地内にカフェが新店！
飲み物片手に河川のお散歩を楽しめます



事例1 一級河川入間川／狭山市

- 入間川は川と人の営みの歴史が数多く残っているものの、開発による水質の悪化や外来種の繁殖などにより、市民と川のつながりが希薄となっていました。
- これまでの川の再生の取組により埼玉県が護岸や遊歩道の整備を行ったところ、市民団体による環境美化活動やイベント開催なども増えていき、入間川が市民にとっての憩いの場であることが再認識され始めていきました。
- また、ここは、狭山市駅から約1kmの市街地に位置し、日常的に散策やサイクリングを楽しむ人々や、公園を楽しむ家族連れが多く訪れる場所でもあります。
- こうした観光資源を活用し、公園の活用を一步進め、より魅力ある場所にするために事業が開始されました。



- 全国で初めて河川敷地内に新店されたスターバックスコーヒーがあります。
- 周辺には、入間川の流れをイメージした滑り台なども設置されていて、子供から大人まで誰もが利用することができます。

都市部の河川も
利活用されています！

事例3 一級河川大落古利根川／春日部市

- 春日部市は、緑豊かな自然環境と、美しい水面を有する大落古利根川や江戸川など豊かな水辺環境に恵まれたまちです。
- 大落古利根川をはじめ、市内の河川沿いに道路系の空間と河川水路沿いの空間が一体となって、春日部市の「水とみどりのネットワーク」を形成する空間として位置づけられ、春日部市のシンボルである大落古利根川を主軸にして、親水ネットワーク都市の実現を目指しています。
- 顕在化された地域の問題を解決しながら、更なる地域の活性化につなげていくために、河川の利活用が計画されました。



- 河川に整備された張り出しテラスなどを用いて、地元で特化した四季折々のイベントが開催されています！



暑い夏に、秩父で最恐に
涼になれる体験ができます！



事例2 一級河川荒川／秩父市



- 渓谷50m上空を横切るジップラインと恐怖の釣り橋や巨大ブランコ、バンジージャンプを楽しむことができます。

- 秩父鉄道終着駅である三峰口駅周辺は、かつては秩父鉱山の中継地として隆盛を誇り賑わっていましたが、現在は人口が減少し過疎地域となっていました。
- 一方で、三峰口駅周辺は、秩父盆地と自然豊かな山地の境に位置しており、美しい特異な地形(ジオパーク)が形成されています。
- こうした観光資源として風光明媚な荒川渓谷を活かし、より魅力ある場所にするとともに、賑わいを取り戻すために河川の利活用が計画されました

アクティビティやカフェだけじゃない！
バーベキューだってできます！



事例4 一級河川槻川／嵐山町



- 河川敷でバーベキューを楽しむことができます！

- 嵐山町は埼玉県のほぼ中央にあり、東京都心へも電車で90分以内の場所にありま。
- 町の南西部に位置する槻川の鎌形地区では、春から秋にかけて町内外から訪れる人々で賑わっており、こうした観光資源を有している槻川をより魅力的な場所にするとともに、秩序ある河川の利用調整などの課題を解決していく必要がありました。
- このため、積極的な観光事業を推進することにより、地域経済のさらなる発展を図るために河川の利活用が計画されました。

利用方法 オープンカフェ、イベント広場、バーベキュー場、移動販売、船着き場など

場所 埼玉県が管理する一級河川（151 河川） ※ただし治水・上支障のない区域に限る

運用の流れ

1 市町村からの事業提案 → 2 協議会の設立 → 3 利活用を行う事業者の選定 → 4 計画の具体化 → 5 営業の開始

水辺空間
とことん活用
プロジェクト

- 利活用を行っていきたい河川について、県は市町村から事業提案を受けます。
- その提案をもとに、河川構造上問題ないか、法令上許可できる内容なのか、市町村と河川管理者で調整を進めていきます。

- 市町村が事務局となり、地域住民や河川管理者などの関係者からなる河川利用調整協議会を設立します。
- 河川利用調整協議会の中で、どんな利活用ができるのか、地域活性化の方針について検討を行っていきます。
- 河川利用調整協議会の要望書を基に、地域振興のために営業活動できる区域である【都市・地域再生等利用区域】に河川管理者が指定します。

- 河川利用調整協議会の中で決定した河川の利活用案を基に、適切な事業者選定を河川利用調整協議会が行います。
- ※公募・随意契約など
- 選定された事業者は施設使用者となります

- 施設使用者から、より具体的な事業提案を受け、河川利用調整協議会の中で営業開始に向けた協議・検討を進めていきます。

- 具体的に決まった計画をもとに、河川管理者(所管する県土整備事務所)へ市町村から占有を申請します。
- 市町村は施設使用者と施設使用契約を締結します。
- 上記手続きが完了したのち、営業を開始することができます。



Next川の再生推進・水辺deベンチャーチャレンジ

埼玉県が実施するおもてなし整備

官民連携で
水辺の魅力アップ!

埼玉県では、令和3年度から、実際に利活用を行ってもらう民間事業者が企画段階から参加できる事業を実施しています。県、市町村、地域住民、企業や環境協会等の4者で河川利用調整協議会を立ち上げて、どういった水辺を整備していくのか検討していきます。

埼玉県はその中で出てきた意見を基に整備を行います。いわば、民間事業者が利活用しやすいようにオーダーメイドのおもてなし整備を行っているのです。

最新情報は
県ホームページを
チェック!



県内14か所で取組中

2024年2月までに14か所登録済み

入間川/飯能市、大落古利根川/春日部市、槻川/小川町、大落古利根川/杉戸町、中川/幸手市、高麗川/日高市、槻川/嵐山町、荒川/寄居町、元荒川(大相模調節池)/越谷市、赤平川/小鹿野町、横瀬川/横瀬町、東川/所沢市、綾瀬川/さいたま市、荒川/秩父市 (※登録順)



「水辺空間とことん活用プロジェクト」では既存の河川をそのまま活用するプロジェクトであるため、実際に活用する際に活用しにくいという事例が発生しました。そこで、新たに企画段階から利活用を行う事業者にも参画してもらい、より利活用しやすい水辺空間を目指します。

企業や観光協会等

- ・オープンカフェやアクティビティ施設を運営する。
- ・運営に必要な維持管理を行う。

市町村

- ・事業立案者として事業計画書の策定を行う。
- ・運営に必要なインフラや周辺施設の整備を行う。

河川利用調整協議会

県

- ・利活用を行いやすくするための河川構造物の整備を実施する。

地域住民等

- ・美化活動や地域活動を行う。
- ・地元にとってもメリットのある水辺を目指して検討を実施する。

水辺deベンチャーチャレンジの取り組み事例

事例1

Fit the Piece of LAKE

一級河川元荒川(大相模調節池) / 越谷市



- ・越谷レイクタウン内にある洪水を抑制する施設である「大相模調節池」を賑わい創出の場として利活用の検討を進めています。
- ・県では水辺に張り出したデッキや、水上アクティビティを楽しむことができる栈橋の整備を実施します。
- ・整備された張り出しデッキの上に店舗が出店されたり、珍しい水上アクティビティを楽しむことができるなど、更なる賑わい創出につなげていきます。

役割

- ・埼玉県→河川構造物の整備
- ・越谷市→インフラの整備
- ・施設使用者→店舗の出店・水上アクティビティの運営等
- ・地元→美化活動・地域活動の促進

事例2

水辺と親しむ回遊空間

一級河川大落古利根川 / 杉戸町



- ・夏には流灯まつりで多くの人で賑わう場所ですが、恒常的に賑わいを創出していくために整備を実施中です。
- ・キッチンカーが出店される張り出したデッキや、河川へ近づくことができるスロープ、非出水期でも水辺に近づくことができる船着き場の整備を実施します。
- ・日常的なキッチンカーの出店や、イベントなどに活用される予定です。

役割

- ・埼玉県→河川構造物の整備
- ・杉戸町→インフラの整備
- ・施設使用者→キッチンカー・イベントの運営等
- ・地元→美化活動・地域活動の促進